

環境報告(要約版)(フォーマット案)

会社名: NEC アクセステクニカ株式会社

経営責任者名: 舟橋 明憲

作成日: 2013年2月12日

問合せ先: 環境推進センター ニッ橋 充弘

会社 URL 又は住所: <http://www.necat.co.jp/>

当社の主な環境配慮の状況は、以下のとおりです。

I. 基本的事項

対象組織の範囲 ^(注1)	<input type="checkbox"/> 連結	<input type="checkbox"/> 単体及び主要な子会社	<input checked="" type="checkbox"/> 単体
捕捉率 ^(注2)	— (%)		96.6 (%)
範囲の変更の有無	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
対象期間 ^(注3)	<input checked="" type="checkbox"/> 財務期間と一致	<input type="checkbox"/> 財務期間と一部相違	<input type="checkbox"/> その他
期間の変更の有無	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

^(注1) 主要な子会社名及び範囲の方針 ()

^(注2) 捕捉率の算定基準 (連結決算対象組織全体の売上高に対する報告対象組織の売上高の割合)

^(注3) 財務期間との差異 ()

II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項

1. 経営責任者の緒言

目標・取組の明言(コミットメント)等

当社の事業活動によって発生するCO₂の抑制、製品に使用する部品のグリーン購入、ムダ“廃除”の生産、製品の省エネ設計・販売、製品の回収・リサイクルを通して環境負荷低減に努め、「地球にやさしい」持続可能な循環型社会の実現に貢献していくことが当社の責務である。

環境経営の基本方策として、「エコ・サプライチェーンにおける自律的な循環と低炭素社会の実現」を目指し、製品開発・設計から調達、生産、販売、回収・3Rまでの全てのプロセスにおいて、生態系・生物多様性を配慮した環境負荷削減活動を実践している。

(環境担当役員: 柴田 明雄)

2. 環境配慮の方針

[環境理念]

NECアクセステクニカは未来の子供たちに豊かな地球環境と住みやすい持続可能な社会を残すために、生物多様性への配慮を含めた地球環境保全活動を積極的に展開し、企業の社会的責任を果たします。

[行動指針]

- a 「循環させる製品開発」、「クリーンな調達」、「ムダ“廃除”の生産」、「エコ商品の提供」、「循環する商品(回収・循環)」を推進し自律的に循環する持続可能なシステムの質を向上する。
- b ネットワーク通信機器の開発設計、部材調達、販売及びサービスにおいて、より環境への負荷を低減し、環境に配慮した商品の提供を拡大・加速する。
- c 生産活動において、内製化の拡大など付加価値を高める中で、ムダを徹底“廃除”し、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減など、環境保全の向上はもとより、あらゆる改善及び効率化を推進する。
- d お客様のもとで不要となった製品の回収・循環に努め資源の有効利用を図る。
- e 関係する法令、各種規制及びその他同意した要求事項の順守はもとより、自主管理基準を設定し環境に影響を与える恐れのある事業活動を責任をもって管理する。
- f 年度毎に環境目的及び目標を定め、その実現を図り継続的な改善に努める。

Ⅲ. 重要な環境課題や戦略に関する事項

該当するものを■にしてください

1. 重要な環境課題

<input checked="" type="checkbox"/> 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 資源循環	<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 廃棄物削減	<input type="checkbox"/> 水・大気汚染
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input type="checkbox"/> 水資源利用	<input type="checkbox"/> 天然資源投入	<input checked="" type="checkbox"/> 化学物質管理	<input type="checkbox"/> その他 ^(注4)

(注4) その他の内容 ()

2. 背景情報

重要な課題に関する背景情報

(1) 収益獲得機会に関する背景情報

今、世界はエネルギーの大量消費社会から持続可能な社会への転換により、グローバルな視点での企業経営の在り方、従業員の働き方等、さまざまな面で変化が求められている。

こうした環境下、企業は CO₂排出量削減だけでなく、提供する製品・サービスやサプライチェーン全体の環境負荷低減、市場や地域の環境意識向上など、幅広い環境改善活動により一層取り組むことが重要である。

(2) ビジネスリスクに関する背景情報

2011年の東日本大震災と原発事故の発生、それに続く原発停止問題により、電力の逼迫が大きくクローズアップされ、経済活動に大きな影響を与えている。

重要な課題に対する中長期ビジョンと戦略

3. ビジョン及び戦略

エコ・サプライチェーンにおける自律的な循環と低炭素社会の実現	
・ 製品開発・設計:	環境配慮型製品の開発
・ 調達:	環境配慮型部材の調達
・ 生産:	製品製造時の環境負荷改善
・ 販売:	省エネルギー型商品等の販売促進
・ 回収・3R:	使用済み製品の回収・リサイクル

IV. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況

重要な環境課題	気候変動:地球温暖化防止 商品の消費電力削減			
当年度における計画及び取組状況	<p>■省エネ製品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際標準機構(ISO)で定められた自己宣言型(タイプII)環境ラベルであるエコシンボルスター認定製品と、エコシンボル認定製品の開発。 <ul style="list-style-type: none"> (1) エコシンボルスター認定製品 (実績 2製品) <ul style="list-style-type: none"> - Aterm WM3600R - Multina XF2300/XF2000/XP2300 (2) エコシンボル認定製品 (実績 12製品)) <p>■省エネ技術開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境技術検討プロジェクトの製品の省エネWGで、省エネ技術を検討。省エネトップランナー水準を維持 			
環境負荷量(総量)	計画 30(%) ※2005年度商品基準の性能向上を勘案した消費電力の削減値	実績 28(%)	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標 ^(注5) 20(%)
環境負荷量(原単位)	計画 — ()	実績 — ()	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標 ^(注5) — ()
財務影響等	—			
結果の分析・評価及び次年度における取組	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は、計画に対して 2%過達となった。 本年度も、中期目標達成に向けて、商品の省エネ化を推進していく。 			

(注5) 中期目標の年度 (2017年度)

重要な環境課題	気候変動:地球温暖化防止 生産活動に伴うCO ₂ 排出量の削減
当年度における計画	■エネルギー使用の合理化

画及び取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 照明、空調の効率化(屋根の遮熱塗装による空調改善、空調室外機への日除け設置)、生産設備の改善 ■地球温暖化防止活動 ・ 輸送エネルギーの低減やマイカー自粛 ■省エネ法対応 ・ 「付加価値原単位を年間 1%以上改善する」を目標に省エネ活動推進 			
環境負荷量(総量)	計画 — ()	実績 — ()	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標 ^(注5) — ()
環境負荷量(原単位)	計画 18.4(t-CO ₂ /億円)	実績 19.2(t-CO ₂ /億円)	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標 ^(注5) 20(t-CO ₂ /億円)
財務影響等	—			
結果の分析・評価及び次年度における取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の品質試験設備稼働増により電力使用量が増加。 ・ 省エネ設備や再生可能エネルギー設備(太陽光発電等)の導入、ムダ廃除により中期計画目標の達成を目指して活動していく。 			

(注5) 中期目標の年度 (2017年度)

重要な環境課題	資源循環:製品回収スキームでの回収量拡大			
当年度における計画及び取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ■広域認定による資源循環の拡充 2010年11月に広域認定制度の処理施設として認可(環廃産発第01108001号)され、2011年度よりリース会社様所有のモデムの再資源化を開始した。 			
環境負荷量(総量)	計画 35(トン)	実績 35(トン)	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標 ^(注5) 530(トン)
環境負荷量(原単位)	計画 — ()	実績 — ()	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標 ^(注5) — ()
財務影響等	—			
結果の分析・評価及び次年度における取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用済みモデムの返却・廃棄の輸送によるCO₂削減や当社の事業拡大に貢献した。 ・ 2011年度は、廃棄する使用済みモデムの19.8tを再資源した。 			

(注5) 中期目標の年度 (2013年度)

重要な環境課題	資源循環:レンタル製品のクローズドリサイクル率の向上			
当年度における計画及び取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ■レンタル製品のクローズドリサイクル率の向上 ・リサイクル材使用 ・スプールランナー再利用 			
環境負荷量(総量)	計画 95(%)	実績 85(%)	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標 ^(注5) 100(%)

環境負荷量(原単位)	計画 — ()	実績 — ()	□第三者審査	中期目標 ^(注5) — ()
財務影響等	—			
結果の分析・評価及び次年度における取組	<ul style="list-style-type: none"> 白色樹脂のクローズドリサイクル技術開発の遅れによる。2012年度中に開発完了の予定。 			

(注5) 中期目標の年度 (2013年度)

重要な環境課題	化学物質管理:環境対応部品調達における顧客クレームゼロ			
当年度における計画及び取組状況	<p>■グリーン調達の推進</p> <p>お取引先(国内・海外)に環境管理システムの構築や製品含有有害化学物質の全廃を求め、基準をクリアした認定お取引先(グリーン調達先)から、環境負荷の小さい部品・材料を調達</p> <p>■有害化学物質規制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> RoHS指令対応:2005年12月に禁止6物質を全廃し、維持・継続 含有物質管理(PMR)レベル向上:2006年度から全ての取引先に実施 REACH規則対応:2010年度以降、情報収集率100%を維持 分析/測定による部品の安全保証:蛍光X線測定器により定期的にサンプル分析・検証を実施 			
環境負荷量(総量)	計画 0(件)	実績 0(件)	□第三者審査	中期目標 ^(注5) 0(件)
環境負荷量(原単位)	計画 — ()	実績 — ()	□第三者審査	中期目標 ^(注5) — ()
財務影響等	—			
結果の分析・評価及び次年度における取組	<ul style="list-style-type: none"> 顧客クレーム件数 0件 			

(注5) 中期目標の年度 (2013年度)

V. 組織体制及びガバナンスの状況

1. 環境経営の組織体制等

最高責任者、委員会等の役割、委員会の構成人員など

[組織体制]

最高責任者を社長とし、環境担当役員が環境経営を遂行。

環境管理委員会は、毎月開催し、エネルギーの安定供給及び環境負荷の低減に関する事項の審議を行う。

[環境マネジメントシステム]

1996年2月にISO14001認証取得(認証機関:(財)日本品質保証機構)。

全従業員による省エネ活動や再生可能エネルギーの活用によるCO₂削減、顧客に提供する環境配慮型製品の開発等、環境マネジメントシステムのPDCAを継続的に回して、環境面より調達・設計・生産・販売の改善活動を進めている。

違反の有無及びその対策

2. 環境に関する規制等への遵守状況

2011年度の遵守確認の結果、法令違反はなかった。

VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況

CSR 調達を含む。要求内容、実施割合など

1. グリーン調達の取組状況

NECのグリーン調達方針に基づき、調達分野でグリーン化に努め、2005年度以降、グリーン調達率100%を維持している。

お取引先(国内・海外)に環境管理システム構築や製品含有有害化学物質全廃を求め、基準をクリアした認定お取引先(グリーン調達先)から、環境負荷の小さい部品・材料を調達している。

新規に開発した環境配慮型製品等の概要など

2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減

2008年度に環境トップランナー製品等の一層のエコプロダクト開発促進を図るため、NECの社内制度として「エコシンボルスター」≪自己宣言型(タイプⅡ)環境ラベル≫が制定された。当社は、次の2製品が2011年度の「エコシンボルスター」に認定された。

(1)モバイル WiMAX ルータ Atrem WM3600R

◆低消費電力化

半導体及びソフトウェアの見直しによりWiMAXハイパワーに対応しながら低消費電力化を実現。連続通信10時間。

◆電力管理機能の採用

待機時間170時間(クイック起動対応)、連続待受25時間。

◆ロングライフ充電

設定により適正電圧になると充電を停止し満充電による電池寿命への影響を避ける。

◆電池残量、電波強度などの見える化

Web画面に状態表示するアプリケーションを提供。

(2)ファクシミリ/プリンタ複合機 Multina XF2300/XF2000/XP2300

◆IEEE802.3az対応

1000BASE-Tのギガビットイーサネットを搭載しつつ、省エネを実現する省エネイーサネット規格EEE(Energy Efficient Ethernet)に、複合機として初めて対応。(2011年7

月)

◆エコボタン搭載

ボタン一つ押すだけでスリープモードへ移行し、待機時の消費電力を低減する。さらにスリープモードが一定時間継続すると、より低消費電力のディープスリープモードに移行する。

また、当社ではホームページやカタログなどで、環境法令や環境ラベルへの適合状況、有害化学物質の不使用、並びに消費電力低減などの環境配慮ポイントを簡潔に明示し、お客様が製品を選択する際の参考情報として提供をしている。

VII. その他の事項

(以下については、環境報告書等を参照することも可能です。ただし、環境報告を作成していない場合や当年度に新たな事象の発生や変更があった場合には、該当する事項を記載して下さい。)

1. 組織体制及びガバナンスの状況

(1) 環境監査及び環境教育

実施概要等

[監査]

- ・ 登録サイト変更審査: 2010年11月実施
- ・ NEC環境経営監査: 2011年10月実施
- ・ 内部環境監査 : 2011年12月実施

[環境教育]

- ・ 全従業員対象教育: eラーニングで実施。4年連続で受講率100%を維持
- ・ 環境に影響のある業務を遂行する従業員への専門教育、新入社員及び新主任への集合教育を開催し、環境意識・レベルの向上を図っている。

推定される災害の程度と
その対応状況

(2) 災害事故等への対応状況

毎年環境リスクを持つ設備や施設を対象に、災害時を想定した緊急対応訓練を実施している。2011年度は、大規模地震の発生による屋内水道配管の破損を想定した「水漏れ応急処置訓練」を新たに実施した。

要請・期待の内容とそれ
らへの対応状況

2. ステークホルダーへの対応状況

2012年度は環境保全活動にご活躍の皆様のご意見をお伺いした。頂いたご意見をこれからの環境活動に活かしていく。

- ・ 中期計画の環境経営度 No. 1実現のため、どのようなことを重点的に取り組むのか。
⇒ 環境推進体制／汚染・生物多様性／地球温暖化対策について、重点的に取り組む計画。
- ・ 子供環境報告書は分かりやすい内容で良い取り組みと思う。ただし、一部の文言が子供に分かりにくい。

⇒分りにくい文言のため、改訂時に修正を行う。

・その他、分別廃棄徹底による有価売却が実施されており、優れているとの声もあった。

3. 社会的取組の状況

紛争鉱物、人権、労働等への対応
が記載されている参照 URL 等

—

4. 後発事象

決算日後の事象の有無
及び概要

—

【補足情報】

(以下において、記載をしない項目は削除してください。斜体文字は記載例です。)

(環境負荷量の時系列一覧)

KPI 等	2010 年度	2011 年度	2012 年度	備考
生産活動に伴う CO2 排出量原単位	[目標値] 19.8(t-CO ₂ / 億円) [実績値] 19.4(t-CO ₂ / 億円)	[目標値] 18.4(t-CO ₂ /億円) [実績値] 18.4(t-CO ₂ /億円)	[目標値] 18.8(t-CO ₂ /億円) -	* 1
商品の消費電力削減	[目標値] 50(%) [実績値] 33(%)	[目標値] 30(%) [実績値] 28(%)	[目標値] 27(%) -	* 2
製品回収スキームでの回収量	- -	[目標値] 35(ton) [実績値] 35(ton)	[目標値] 250(ton) -	* 3
レンタル製品のクローズドリサイクル率	[目標値] 90(%) [実績値] 89(%)	[目標値] 95(%) [実績値] 85(%)	[目標値] 100(%) -	* 4
顧客クレーム件数	[目標値] 0(件) [実績値] 0(件)	[目標値] 0(件) [実績値] 0(件)	[目標値] 0(件) -	* 5
環境教育受講率	[目標値] 100(%) [実績値] 100(%)	[目標値] 100(%) [実績値] 100(%)	[目標値] 100(%) -	* 6

主要なパフォーマンス指標(KPI)及び KPI と関連する環境負荷量の直近 3 年分

(数値情報に関する補足情報)

- * 1 算定方法(掛川本社における CO₂ 排出量原単位)
- * 2 算定方法(2005年度商品を基準とした性能の向上を勘案した消費電力の削減率)
- * 3 算定方法(広域リサイクル回収量)
- * 4 算定方法(クローズドリサイクル適用製品再生数/総再生数)
- * 5 算定方法(顧客からのクレーム件数)

*6 算定方法(全従業員対象教育の受講率)

*7 ライフサイクルにおける活動別環境負荷量

活動区分	温室効果ガス排出量
原料調達	—
生産	3,609t-CO ₂
使用	—

法令により国に報告した環境負荷量のうち、重要な課題に関するものなど

(法令等により国に報告した環境負荷量)

会社名	温室効果ガス排出量	備考
NEC アクセステクニカ(株)	4,014 (t-CO ₂)	*1

※算定基準(算定式、係数等)が「数値情報に関する補足情報」と相違する場合 (その内容)

*1 根拠法令等(温対法)

*2 算定方法(算定式、係数等)

会社名	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分の状況等	備考
NEC アクセステクニカ(株)	蛍光灯安定器 1,593 個保有 PCB汚染廃電気機器 等 3 台廃棄(全廃)	*1

※算定基準(算定式、係数等)が「数値情報に関する補足情報」と相違する場合 (その内容)

*1 根拠法令等(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)

*2 算定方法(算定式、係数等)

会社名	再商品化委託申込量	備考
NEC アクセステクニカ(株)	5. 紙製容器包装 0.010(ton) 6. プラスチック製容器包装 5.0(ton)	*1

※算定基準(算定式、係数等)が「数値情報に関する補足情報」と相違する場合 (その内容)

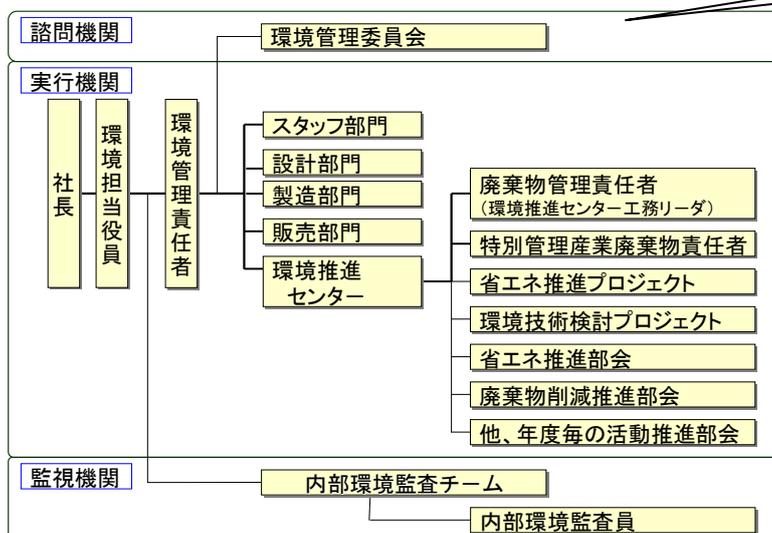
*1 根拠法令等(容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律)

*2 算定方法(算定式、係数等)

(組織体制等)

図

組織体制等の全体像や他の組織体制との関係が分かる図



(環境配慮製品の研究開発等)

図等

環境配慮型製品の研究開発等の具体的なイメージ

(環境報告書の関連ページ一覧表)

環境報告書等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> 予定あり ^{注4}	<input type="checkbox"/> なし
-----------	--	---	-----------------------------

(注4) 環境報告書等の策定予定年月 (年 月)

環境報告書等の名称(社会・環境報告書 2012、<http://www.necat.co.jp/kankyuu/report.html>)

環境報告(要約版)の記載項目	該当ページ	環境報告(要約版)の記載項目	該当ページ
I. 基本的事項	3	V. 組織体制及びガバナンスの状況	10
II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項	9	1. 環境経営の組織体制等	10
1. 経営責任者の緒言	9	2. 環境に関する規制等への遵守状況	23
2. 環境配慮の方針	9	VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	-
III. 重要な環境課題や戦略に関する	9,11,	1. グリーン調達の取組状況	16

る事項			
1. 重要な環境課題	11	2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減	15
2. 背景情報	-	VII. その他の事項	-
3. ビジョン及び戦略	9	1. 組織体制及びガバナンスの状況	-
IV. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況	-	(1) 環境監査及び環境教育	10, 18
1. 重要な環境課題(気候変動:地球温暖化防止 商品の消費電力削減)	11, 14	(2) 災害事故等への対応状況	17
2. 重要な環境課題(気候変動:地球温暖化防止 生産活動に伴うCO ₂ 排出量原単位)	11, 12	2. ステークホルダーへの対応状況	26
3. 重要な環境課題(資源循環:製品回収スキームでの回収量)	11, 13	4. 後発事象	-
4. 重要な環境課題(資源循環:レンタル製品のクローズドリサイクル率)	11		
5. 重要な環境課題(資源循環:顧客クレーム件数)	11, 16		